

**<主イエスを信じた人たち> マタイの福音書 8章 1-13節****ツァラアトに冒された人と百人隊長の信仰**

『主よ。お心ひとつで、  
私をきよくしていただけます。』

このふたりに共通したことは、イエス様を信じたということ。信じたからイエス様のみもと来て、権威を受け入れてひれ伏した。そこに癒しの御業が起こった。



5章から7章にかけてのイエス様の「山上の説教」と呼ばれる数々のことば：それらの語り掛けを聞く者たちの中から、イエス様を信じて生きる人たちが生まれることを願っておられる。ところが、思いがけないところで探し物が見つかった。

**10節『イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことはありません。・・・』**

**13節『それからイエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。』**

神を信じる信仰とは：①イエス様自身がビックリするような素晴らしいもの。

②あなたが信じたその信仰によって救いの出来事が起こってくる。③そのような信仰が与えられているあなたがたは幸いだ。

「みこころならば、そのようにしてください。」という祈り。それどういう意味？本来、神の「みこころ」とは神ご自身にしかできないこと。「みこころ」についての自分の判断をしていないだろうか。そこで私たちがすることは、自分の疑いも迷いもみんなひっくるめて、神ご自身が望まれることにお任せすること。それこそイエス様を信じ、その権威を受け入れること。

**3節「イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。」**  
人々が忌み嫌った汚れにイエス様は触れられた。清めるだけでなく触れることを望まれた。百人隊長の僕の癒しの出来事を読めば、イエス様は人を癒すために、その人に触れることを必要としていなかったということは明らか。それは治療のための必要不可欠な手段ではなく、その病のもたらす痛みの中心を主イエス様はご存知であったのだろう。

私たちは、死の間際であってもイエス様のみこころを信じることができる。そのとき私たちは真実に、死に勝つことができる。そのために私たちが今のうちに求めるべきことは主に触れて頂くこと。みことばを聞き取らせて頂くこと。

イエス様は重い皮膚病を、手を触れただけで清めてしまわれました。しかし罪の汚れから私たちを清めるために、イエス様は十字架で血を流さなければならなかった。